

富士見市立資料館 調査研究報告

第2号

富士見市立考古館
開館50周年記念号

2024.12

埼玉県 富士見市立資料館

刊行にあたって

当市には、国指定史跡水子貝塚を整備した水子貝塚公園と、県指定旧跡難波田氏館跡を整備した難波田城公園があり、それぞれに資料館が設置されています。

両館とも、展示事業や体験型事業を積極的に開催し、市民の方々が郷土の歴史や文化財に親しむ機会を提供しています。一方で、地域の歴史や文化財の調査・研究の成果については十分に情報を伝えられていないことから、2021年より「調査研究報告」の刊行を始めました。

2023年には、両資料館の母体である市立考古館が開館50周年を迎えたことから、特集号を企画しました。考古館の初期を支えた方々に当時の状況を振り返っていただき、職員は多忙な業務の中で、50年間に蓄積された資料を活用した論考をまとめました。

この調査研究報告が多くの方に利用され、地域史解明の一助となり、当市の財産となることを願います。

令和6(2024)年12月

富士見市立資料館長 堀 善之

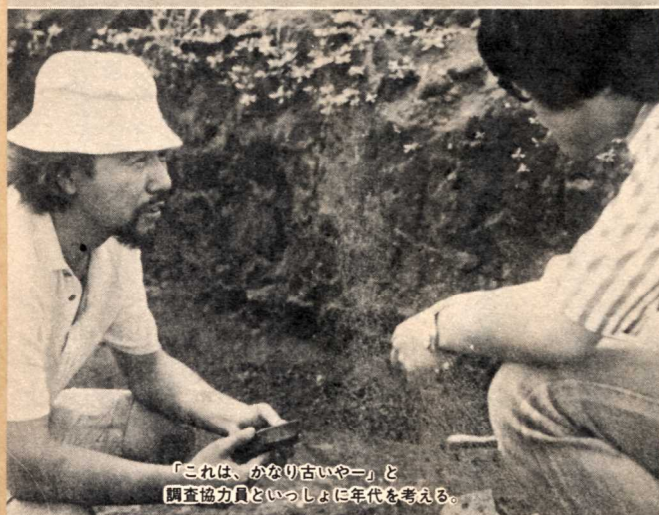
目次

講演記録	荒井幹夫	無我夢中 -考古館創成期-	2
講演記録	会田明	市民の好奇心が考古館を変えた	8
回想	和田雅子	とにかく熱かった	18
論文	和田晋治	縄文中期勝坂式期の猪装飾付土器	20
論文	早坂廣人	花積下層～関山式土器について	38
事例報告	駒木敦子	公民館で「社会教育施設の専門職」について考えた	84
研究ノート	山野健一	石鳥居が伝える江戸と鶴馬の結びつき	88
研究ノート	田ノ上和宏	入間ごぼうに関する調査と考察	96
資料紹介	佐藤一也	上内手遺跡第10地点出土の陶磁器	112
資料紹介	高橋宏之	南通遺跡出土の下小野系土器について	118
資料紹介	大野朝日	新田遺跡第1号住居跡について	124
資料紹介	齊藤麻那	打越遺跡出土の押出型石匙について	138
資料紹介	菅沼慎太郎	南通遺跡近世墓坑と出土銭貨	140



ふじみ

51. 9 月
No.136



「これは、かなり古いやー」と
調査協力員といっしょに年代を考える。

古きをたずねて…………… 歴史が生きる考古館

富士見市はよく埋蔵文化財の宝庫といわれます。

国指定の水子貝塚をはじめ打越遺跡や殿山貝塚などに代表される埋蔵文化財の包蔵地が、市内約100カ所に点在しています。

年々進む都市開発からこのような貴重な文化財を保護・保存し、一人でも多くの市民に古代を知っていただくとうと48年8月に、上南畑に市立考古館がオープンしました。

ここで働く3人の職員は、発掘調査や石器・土器の復元作業にと汗をながしています。

毎年7月末から8月上旬にかけて行われる夏休み考古学教室にも人気が集まり、職員の説明を熱心に聞く小学生の姿をよく見かけました。

考古館は、あなたのご来館をお待ちしています。(日祝日を除く毎日午前8時半～午後5時。土曜日は正午までです。)



子供たちに、
一つ一つ詳しく説明する職員。



念入りに行われる
発掘調査(打越で)

人口

8月1日現在	
総人口	71,579人
男	35,982人
女	35,597人
前月との差	+152人
世帯	20,856戸
転入	545人
転出	505人
出生	126人
死亡	14人

定価10円 編集発行 埼玉県・富士見市役所 TEL(0492)51-2711(代表) 〒354 毎月10日発行 昭和45年1月21日第3種郵便物認可

発掘調査現場の荒井幹夫氏と考古館展示室の会田明氏 (『広報ふじみ』 昭和51[1976]年9月号)